

アルザス研修の報告

2009年2月24日

報告者：菅沢龍文

期間：2009年2月9日～15日（現地集合・現地解散）

場所：フランス：アルザス・欧州日本学研究所（CEEJA）

引率教員：安孫子、菅沢

参加者：哲学科の安孫子ゼミ・菅沢ゼミの学生・OB有志（10名、内訳は以下のとおり（敬称略）。OG：芳野、4年生：岩崎・引間・小俣（2/11-2/14）・加藤（-2/12）、3年生：本田・朝岡・門永・兵藤・松下。安孫子ゼミ生9名と菅沢ゼミ生1名）

目的：学生がヨーロッパの文化に直接触れるなかで、日本文化について考えて新たな発見をし、同世代のフランス人をはじめとする国際色豊かな学生と交流することで、ヨーロッパや異文化に対する理解や関心を深める。また、異文化を知るための道具として外国語を学ぶことの重要性を実体験し、学習意欲を高める。

<事前準備>

プラン：安孫子がCEEJAとの緻密な連絡のもとでプランを作成した。（添付資料参照）

航空券：希望者の分の航空券について、HISとの交渉を安孫子が行った。

傷害保険：希望者の分の保険契約について、HSとの団体契約を安孫子が行った。（保険に入ることは参加者全員の必須要件とした。）

参加者への連絡：安孫子がメールで参加者全員に注意事項を徹底した。

事前の打ち合わせ会：1月の始めに、現地で協力くださる津崎先生（一時帰国中）と、参加学生（数名）とを交えての打ち合わせを行った。

念書：保護者と参加学生の連名署名（押印付）で、すべて自己責任で参加する旨の念書をいただいた。

携帯電話：引率教員は海外で利用可能な携帯電話を常時所持した。また、CEEJAの担当者（徳江さんとヴィルジニさん）の携帯電話番号も周知し、緊急時には連絡できる体制にした。

<2月9日（月）>

（日本）午前10時に成田空港で同じ便で出発する学生9名と教員2名が集合。

（フランス）嵐のためドゴール空港が午後8時に全面封鎖となり、目的のバーゼル空港への乗継ぎ便が飛ばず、エール・フランスが用意したホテルで1泊（夜と朝の2食付）することになる。フランスでの緊急時における空港での交渉や、ホテルでの交渉では、間違いがないためには、フランス語を話せる引率者がいることがきわめて望ましい。



パリ近郊のデズニーランドの四星ホテル (Dream Castle) への地図。部屋は、家族部屋 (ダブルベッド+2段ベッド) で、学生は2人1部屋、教員は1人1部屋あてがわれた。(安孫子先生の交渉の成果)

< 2月10日 (火) >

- 午前中から予定の便が次々にキャンセルとなり、結局バーゼル空港へ向かわず、ストラスブール空港に夕方近くに到着。
- ストラスブール空港からは、CEEJA からの二台の迎えの車で宿舎に到着。
- 全体会で CEEJA の徳江さんとクリストフさん、ヴィルジニさんから説明を受け、全員が自己紹介をする。(2月10日の昼間のワークショップ——九鬼の『いき』の構造』とベルクソンの『笑い』をめぐって——その他の予定はすべてキャンセルとなる。)
- 夜は CEEJA が用意したレストランで食事。



ストラスブール空港で。(徳江さんをはじめとする CEEJA の方が出迎えに来られた。)



全員の自己紹介と宿舎やプランの諸注意。(写真上)奥に徳江さん。(写真右上)クリストフさん。(写真右)ヴィルジニさん。



<2月11日(水)>

- ストラスブールへ(CEEJAから二台の車でコルマル駅へ、駅からストラスブール駅までは列車。)
- ストラスブールの街を見学(ゲーテンベルク像やゲーテの宿泊した建物など)、ノートル・ダム大聖堂の中を見学、さらに大聖堂の塔に登り街全体を眺望。
- CEEJAの用意したレストランで昼食:CEEJA副館長の村上先生とも共に食事をする。ここから、津崎先生とリヨンから来た小俣君(安孫子ゼミ)が参加。
- ストラスブール大学(旧マルクブロック大学)の津崎先生の日本語クラスの授業に参加。フランス人をはじめとする海外の学生と交流。
- アルザス博物館を訪問(津崎先生も参加)
- CEEJAの二台の車でコルマルの宿舎へ帰る。安孫子先生はパリへ。
- 夜はCEEJAの用意したレストランで食事。



写真左:コルマル駅から出発。(宿舎からは車で送っていただいた。)
写真右:ストラスブールへの車中でヴィルジニさんの説明を受ける。



写真左上：塔の上から見たストラスブール大学方面（写真左から中央にかけて）

写真右上：グループワーク（3グループ）を指導する津崎先生。

写真左下：ゼミの最後にみんなで打ち解けた集合写真。

写真右下：アルザス博物館の見学。

< 2月12日（木） >

- 早朝に加藤君（安孫子ゼミ）がタクシーでバーゼル空港へ発つ（クリストフさんと菅沢がタクシーの出発を見送った）。
- 早朝からアルザスの社会や文化についてのストラスブール大学のハイム先生の上手な日本語による講演会および質疑応答（参加者からの謝礼をする）。新聞2紙の記事になる（添付資料参照）。
- リクヴィルの古い街並を見学。
- CEEJAの用意したレストランで昼食。
- セレスタの街とユマニスト図書館を見学。所員の詳しい説明を受ける。（フランス語での説明を津崎先生が通訳する。津崎先生の用意された添付資料も参照。津崎先生には、今回の研修にご協力いただいたことについて、些少ながら謝礼をした。）
- 夜はCEEJAの用意したレストランで食事。



写真上：ハイム先生の講演。



写真上：講演会、質問光景。(写真：小俣)



写真上：中世のリクヴィル



写真上：リクヴィルの土産物店。



写真左：セレスタのユマニスト図書館で館員の詳しい説明を受ける。(写真：引間)



写真右：セレスタのユマニスト図書館所蔵のトマス・アキナスの『神学大全』（1462年ごろ、ストラスブールで印刷）。

<2月13日（金）>

- フライブルク大学を訪問（管理棟の屋上階で説明を受け、哲学科図書室等を見学）。
- 大学食堂で昼食。
- フライブルク大学の博物館を見学（英語での説明を津崎先生が通訳）。
- フライブルクの街を見学。
- 独仏国境のライン河を見学。
- 夜は CEEJA の用意したレストランで食事。
- 夜中に安孫子先生がパリから宿舎に戻る。



(写真：小俣)

写真左：大学管理棟の屋上階でフライブルク市と大学についての説明を受ける。

写真下：アリストテレスとホメロスの像を前にして。



(写真：引間)

下の写真左上：哲学科と教育学科の図書室。

下の写真右上：プロメテウスの壁画のあるホール。

下の写真左下：大学博物館で英語の説明を通訳する津崎先生。

下の写真右下：ライン河のドイツ側からフランス側を眺望する。



(写真：引間)



(写真：引間)



(写真：引間)



<2月14日（土）>

- 小俣君（安孫子ゼミ）とコルマール駅で別れる。
- コルマールのウンターリンデン美術館（グリュネバルトのイーゼンハイム祭壇画で有名、アルザスの歴史的な遺物や考古学的出土品、現代絵画も展示されており、動画映写機の歴史展も行われていた）を見学。
- CEEJA の用意したレストランで昼食。
- コルマールの街を見学。
- 夜は CEEJA の用意したレストランで食事。



ウンターリンデン美術館前で（手前右端がフレデリックさん、後方右端からクリストフさん、エマニュエルさん。写真：引間）



時折降る雪の街コルマールで自由行動

<2月15日（日）>

- 早朝（4時15分）に業者の大型バスで宿舎からバーゼル空港に向かう。出発時には、徳江さんとヴィルジニさんのお世話になる。（バスの中で食べられるように朝食が用意された。）
- パリのドゴール空港経由で、翌16日早朝に成田空港で10名が帰国。

<終わりに>

われわれのアルザス研修のために用意されたどのプログラムも CEEJA のスタッフが積極的に応援してくださり、おかげでたいへん充実したものになった。研修全般にわたって、学生は個人旅行や一般のパック旅行では体験できない、研修ならではの独自の有意義な体験を積んだと言える。また、ストラスブール大学の津崎先生の絶大なご協力をいただいたことで、研修の意味がいつそう大きなものになった。なお、今回は菅沢が指に怪我をしたさいに、徳江さんと津崎さんが率先して付き添ってくださり、夜の救急時間帯に近くのコルマール市民病院でたいへん丁寧な処置をしていただけた。かくして CEEJA がこのような緊急事態にも対応できることを、お恥ずかしながら図らずも自ら検証することになった。CEEJA の副館長であられる村上先生、スタッフの徳江さん、エマニュエルさん、ヴィルジニさん、クリストフさん、フレデリックさん、アンリさん、その他にも送り迎えや食事や部屋等いろんな場面で陰に陽にお世話になった CEEJA の方々とストラスブール大学の津崎先生とに深く感謝しなければならない。